

協議事項 1

鳥取県立美術館の開館に向けた美術作品収集方針について

鳥取県立美術館の開館に向けた美術作品収集方針に係る県民説明会について、別紙のとおり協議します。

令和4年9月8日

鳥取県教育委員会教育長 足 羽 英 樹

2025年春に開館する鳥取県立美術館



この美術館はどのようなコンセプトでつくられ、
どのような機能を果たそうとしているか

鳥取県立美術館「目的・コンセプト」

〈平成29年3月 基本構想〉
美術館の必要性

鳥取県の美術の
継承と発信

内外の美術との
接触と交流

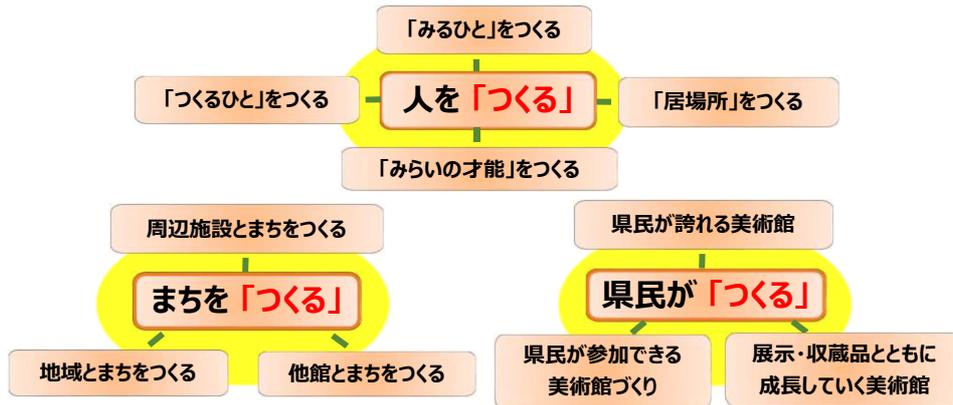
県民の創造性と
鳥取県の魅力の向上

〈平成30年7月 基本計画〉
美術館の目的・コンセプト

「私たちの県民立美術館」



「未来を『つくる』美術館」



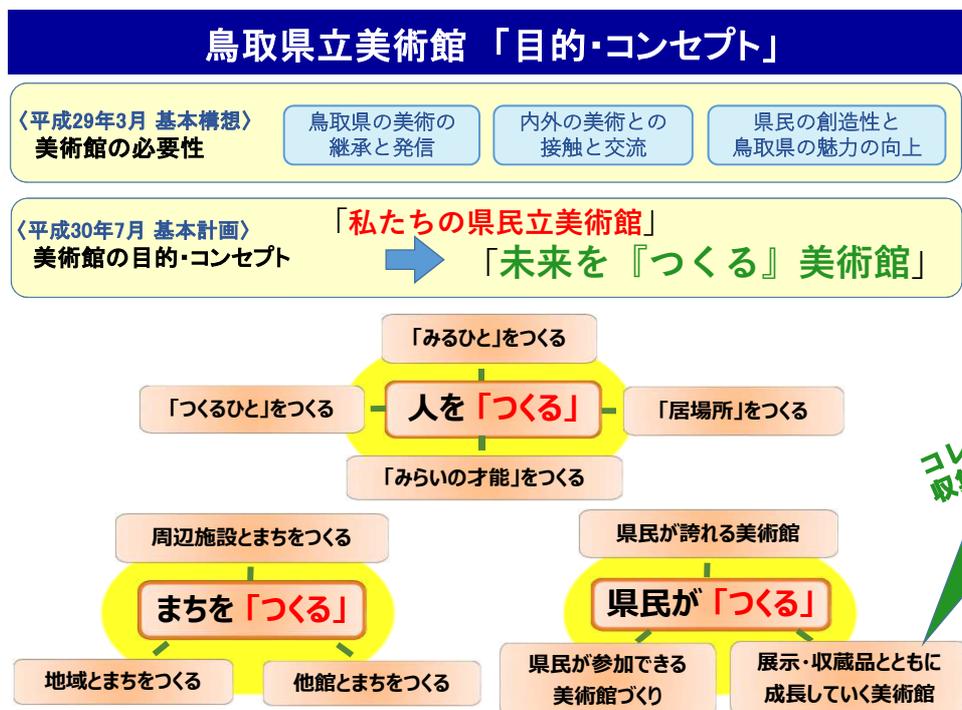
スタンダードな美術館がもつ四つの機能

- ・ 優れた作品を収集し、良好な状態で保存し、次の世代に伝える
→ コレクション
- ・ 展覧会として作品を展示し、優れた作品を来館者に届ける
→ 展示
- ・ 作家や作品についての情報を収集し、蓄積する
→ 調査研究
- ・ 来館者に作家や作品についての情報を提供し、理解を深める
→ 教育普及

スタンダードな美術館がもつ四つの機能

本日のレクチャーの
テーマはここ!

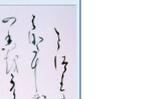
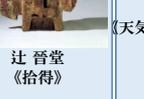
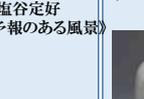
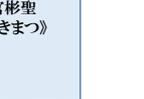
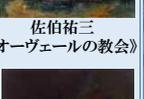
- ・ 優れた作品を収集し、良好な状態で保存し、次の世代に伝える
→ コレクション
- ・ 展覧会として作品を展示し、優れた作品を来館者に届ける
→ 展示
- ・ 作家や作品についての情報を収集し、蓄積する
→ 調査研究
- ・ 来館者に作家や作品についての情報を提供し、理解を深める
→ 教育普及



コレクションの
収集はここ!

鳥取県立博物館(美術分野)の現在のコレクション

代表的なコレクション

日本画	洋画	版画	彫刻	写真	工芸	書
 <p>沖一峨《花果方円図》</p>	 <p>前田寛治 《棟梁の家族》</p>	 <p>岡村吉右衛門 《祭》</p>	 <p>辻 晋堂 《拾得》</p>	 <p>塩谷定好 《天気予報のある風景》</p>	 <p>バーナード・リーチ 《扁壺》</p>	 <p>都宮彬聖 《さつきまつ》</p>
 <p>片山楊谷《花王獸王図》</p>	 <p>佐伯祐三 《オーヴェルの教会》</p>	 <p>橋本興家 《錦鏡の城 姫路城》</p>	 <p>長谷川塊記 《ボース》</p>	 <p>植田正治 《パパとママとコドモたち》</p>	 <p>前田昭博 《白瓷面取壺》</p>	 <p>柴山抱海《日華》</p>
 <p>菅 橋彦《神倉秋景》</p>	 <p>ギュスターヴ・クールベ 《まどろむ女(習作)》</p>				 <p>前田昭博 《白瓷面取壺》</p>	
					 <p>森田統(十雨) 《伊羅保写茶盃》</p>	

鳥取県立美術館の収集方針拡大について

なぜ収集方針を拡大するのか？

↓

- 新しい方針によって収集された作品と比較することを通して、鳥取県の美術を相対化し、あらためてその充実を確認する。
- 今までの収集方針によっては収集できなかった「目玉」となるような作品を収集することを可能とする。
- 「未来をつくる美術館」として、若手作家やこれまで収集の対象と考えられなかった作家についても積極的に収集することで、評価の定まった作品の収集だけでなく、美術館が作家を評価していくことにつなげていく。

鳥取県立美術館「目的・コンセプト」

〈平成29年3月 基本構想〉
美術館の必要性

鳥取県の美術の
継承と発信

内外の美術との
接触と交流

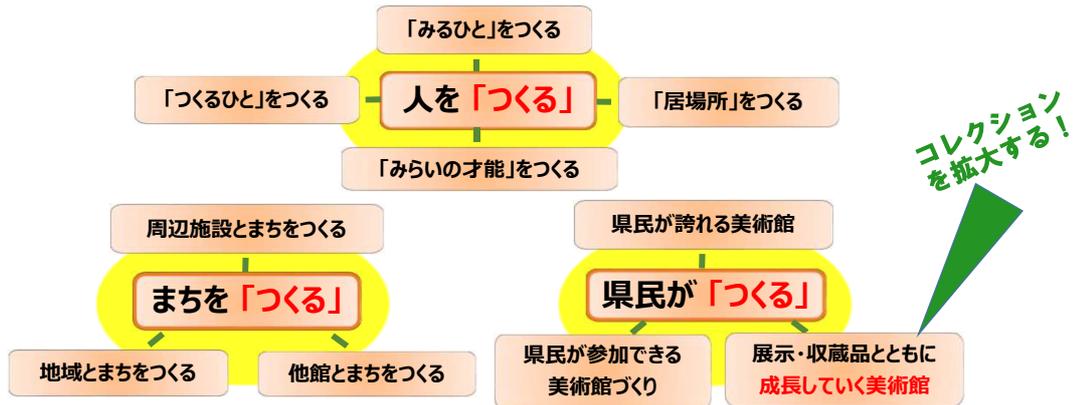
県民の創造性と
鳥取県の魅力の向上

〈平成30年7月 基本計画〉
美術館の目的・コンセプト

「私たちの県民立美術館」



「未来を『つくる』美術館」



鳥取県立美術館の収集方針の拡大について

鳥取県立美術館整備基本計画（平成30年7月）p.13より



美術館の中心となる機能

「あつめる・まもる（収蔵）」の事業展開

- 県博が収集してきた美術作品等を引き継ぎ、鳥取県にゆかりのある優れた美術作品等を中心としながら、コレクションの充実を図ります。
- コレクションポリシー（収集方針）の見直しを図り、より広範囲の、国内外の優れた美術作品等の収集を図ります。

鳥取県立美術館の収集方針の拡大について

鳥取県立美術館整備基本計画 (平成30年7月)
p.13より

↓

美術館の中心となる機能

「あつめる・まもる (収集)」の事業展開

- 県博が収集してきた美術作品等を引き継ぎ、鳥取県にゆかりのある優れた美術作品等を中心としながら、コレクションの充実を図ります。
- コレクションポリシー (収集方針) の見直しを図り、より広範囲の、国内外の優れた美術作品等の収集を図ります。

新しい収集方針における収集基準

1. 『鳥取県の美術』

- (1) 鳥取県に関係した近世以前の美術作品
- (2) 鳥取県にゆかりのある近代作家の美術作品
- (3) 鳥取県にゆかりのある現代作家の美術作品
- (4) 鳥取県の自然や風物などを題材にした美術作品
- (5) 郷土作家とつながりをもつ国内外の作家の優れた美術作品

鳥取県立美術館の収集方針の拡大について

鳥取県立美術館整備基本計画 (平成30年7月)
p.13より

↓

美術館の中心となる機能

「あつめる・まもる (収集)」の事業展開

- 県博が収集してきた美術作品等を引き継ぎ、鳥取県にゆかりのある優れた美術作品等を中心としながら、コレクションの充実を図ります。
- コレクションポリシー (収集方針) の見直しを図り、より広範囲の、国内外の優れた美術作品等の収集を図ります。

新しい収集方針における収集基準

1. 『鳥取県の美術』

- (1) 鳥取県に関係した近世以前の美術作品
- (2) 鳥取県にゆかりのある近代作家の美術作品
- (3) 鳥取県にゆかりのある現代作家の美術作品
- (4) 鳥取県の自然や風物などを題材にした美術作品
- (5) 郷土作家とつながりをもつ国内外の作家の優れた美術作品

2. 『国内外の優れた美術』 ← 新方針

- (1) 江戸絵画の多様性を示す優れた作品
- (2) 近代 (明治～戦前) における各分野の参照点となる優れた作品
- (3) 戦後の美術・文化の流れを示す優れた作品
- (4) 館の内外に半恒久的に設置する作品 (現存作家への委託制作作品)

3. 『同時代の美術の動向を示す作品』 ← 新方針

- (1) 過去20年間でめざましい活動を行った作家の作品
- (2) 当館の企画展およびスタジオ・プログラムに参加した作家の作品
- (3) 国内外の公立美術館での発表または重要な展覧会に参加した作家の作品

鳥取県立美術館のコレクション収集方針

1. 『鳥取県の美術』 ← 既存方針

- (1) 鳥取県に関係した近世以前の美術作品
- (2) 鳥取県にゆかりのある近代作家の美術作品
- (3) 鳥取県にゆかりのある現代作家の美術作品
- (4) 鳥取県の自然や風物などを題材にした美術作品
- (5) 郷土作家とつながりをもつ国内外の作家の優れた美術作品
 - 江戸絵画
 - 近代絵画（日本画、洋画）
 - 彫刻・立体
 - 工芸
 - 写真

2. 『国内外の優れた美術』 ← 新方針

- (1) 江戸絵画の多様性を示す優れた作品
 - 琳派
 - 江戸後期の京都画壇
 - 「奇想の画家」たちの優品
 - 海外との交流の中で生まれた作品

鳥取県立美術館のコレクション収集方針

2. 『国内外の優れた美術』 ← 新方針

- (2) 近代（明治～戦前）における各分野の参照点となる優れた作品
 - 日本画
 - 洋画
 - 彫刻
 - 工芸・デザイン
 - 写真
- (3) 戦後の美術・文化の流れを示す優れた作品
 - 前衛精神を示す作品
 - もの派とそれ以後の立体表現
 - ニューペインティング以後の絵画表現
 - ポストモダンの多様な表現
 - 日本の工芸・デザインの特質を示す作品
 - 豊かな自然環境を背景とする海外の工芸・デザイン
 - 優れた写真表現
 - 国内外のポップ・カルチャーの起点となった優れた作品

鳥取県立美術館のコレクション収集方針

2. 『国内外の優れた美術』 ← 新方針

- (3) 戦後の美術・文化の流れを示す優れた作品
 - 世界の多様な文化と社会の理解に資する作品
 - サウンド・アートおよびパフォーマンス・アート
 - 言葉を素材とした多様な表現
- (4) 館の内外に半恒久的に設置する作品（現存作家への委託制作作品）
 - 自然・環境と人の営みの関係性を想起させる作品
 - 鳥取の風景や風土に根ざした作品
 - 県民との協働を通じて制作される作品（プロジェクトを含む）

3. 『同時代の美術の動向を示す作品』 ← 新方針

- (1) 過去20年間でめざましい活動を行った作家の作品
- (2) 当館の企画展およびスタジオ・プログラムに参加した作家の作品
- (3) 国内外の公立美術館での発表または重要な展覧会に参加した作家の作品

新しい方針と、最近収集した作品について

1. 『鳥取県の美術』 ← 既存方針

- (1) 鳥取県に関係した近世以前の美術作品



土方稲嶺《東方朔図》



片山揚谷《猛虎図》(右幅)

- (2) 鳥取県にゆかりのある近代作家の美術作品



前田寛治《田園風景》



小早川秋聲《虫の音》

新しい方針と、最近収集した作品について

1. 『鳥取県の美術』← 既存方針

(3) 鳥取県にゆかりのある現代作家の美術作品

辻晋堂《語込教育を受けた子供》



中ハシ克シゲ《Pine Gate》

(4) 鳥取県の自然や風物などを題材にした美術作品

新しい方針と、最近収集した作品について

1. 『鳥取県の美術』← 既存方針

(5) 郷土作家とつながりをもつ国内外の作家の優れた美術作品

○近代絵画（洋画）



中山嶺《風景》

長谷川利行
《婦人像(前田寛治婦人像)》



○彫刻・立体

堀内正和《Exercise 7》



○江戸絵画
○近代絵画（日本画）
○工芸
○写真

新しい方針と、最近収集した作品について

2. 『国内外の優れた美術』 ← 新方針

(1) 江戸絵画の多様性を示す優れた作品

○琳派

○江戸後期の京都画壇

○「奇想の画家」たちの優品

○海外との交流の中で生まれた作品

(2) 近代（明治～戦前）における各分野の参照点となる優れた作品

○日本画

○洋画

○彫刻

○工芸・デザイン

○写真

新しい方針と、最近収集した作品について

2. 『国内外の優れた美術』 ← 新方針

(3) 戦後の美術・文化の流れを示す優れた作品

○前衛精神を示す作品

○ニューペインティング以後の絵画表現



アンディー・ウォーホル
《ブリロの箱(1)～(5)》
展示風景

○もの派とそれ以後の立体表現



村岡三郎
《Standing Bed》1979年
展示風景

収集意義：
辻普堂と同時代にあらわれた、辻とは異なる新しい立体表現を示し、両者を比較させながら、戦後の立体表現の豊かさに触れてもらう。



依田順子
《Untitled #P-5》(部分)
1998年

収集意義：
当館の収蔵品には見られない、形式的な関心から制作された作品。新たな表現方法の作例として、コレクションに一層の厚みを与える。

○ポストモダンの多様な表現

新しい方針と、最近収集した作品について

2. 『国内外の優れた美術』 ← 新方針

(3) 戦後の美術・文化の流れを示す優れた作品

○前衛精神を示す作品



アンディー・ウォーホル
《ブリロの箱(1)~(5)》

本県でウォーホル《ブリロの箱》を収集する意義

- 美術における価値観の世界的な変化を、鳥取県民に肌で感じてもらう。
- これまでの美術の常識にはない発想によって、新しい表現と、その後のアートの未来を切りひらいた本作が発信するメッセージは、厳しい現代社会を生き抜かねばならない鳥取県子ども達が、従来の常識にとらわれずに柔軟に発想を転換し、強くしなやかな思考を身につける上で大きく寄与する、高い教育的意義をもつ。
- 産業デザインやものづくりの視点での展示展開や、高校等でのデザインや文化史の授業などでの教育的利用も可能。

新しい方針と、最近収集した作品について

2. 『国内外の優れた美術』 ← 新方針

(3) 戦後の美術・文化の流れを示す優れた作品

○優れた写真表現



山沢栄子
《What I am doing No.62》

収集意義：
赤碕の塩谷定好と同一年であるため、塩谷と同時代の表現活動を示すような展示展開が期待できる有用性の高い作品。

○国内外のポップ・カルチャーの起点となった優れた作品

○世界の多様な文化と社会の理解に資する作品

○日本の工芸・デザインの特質を示す作品

○豊かな自然環境を背景とする海外の工芸・デザイン



やなぎみわ
《My Grandmothers MIWA》

収集意義：
LGBTQやSDGsの考え方もつながる、多様な価値観を示す作品。当館が既に所蔵している1点と一体となることで、コレクションに一層の厚みを与える。

新しい方針と、最近収集した作品について

2. 『国内外の優れた美術』 ← 新方針

(3) 戦後の美術・文化の流れを示す優れた作品
○言葉を素材とした多様な表現



井上有一《月》1983年 墨・和紙
(垣田堅二郎コレクション)

収集意義:
戦後の前衛書道を代表する井上の作品。宮沢賢治の詩篇を書作品に昇華するなど、言葉に対する新しい感覚を書の世界に導入した井上の作品を収集することで、書の多様性を示すことが可能となる。

©UNAC TOKYO

(4) 館の内外に半恒久的に設置する作品
(現存作家への委託制作作品)

○自然・環境と人の営みの関係性を想起させる作品

○鳥取の風景や風土に根差した作品

○県民との協働を通じて制作される作品
(プロジェクトを含む)

○サウンド・アートおよびパフォーマンス・アート

新しい方針と、最近収集した作品について

3. 『同時代の美術の動向を示す作品』 ← 新方針

- (1) 過去20年間でめざましい活動を行った作家の作品
- (2) 当館の企画展およびスタジオ・プログラムに参加した作家の作品
- (3) 国内外の公立美術館での発表または重要な展覧会に参加した作家の作品



竹川宣彰《群落》2011年

収集意義:
2011年3月に発生した東日本大震災を契機として制作された作品シリーズに含まれる作品であり、メッセージ性の高さや、時代を記録するというテーマからも収集に値する優品。



真島竜男
《無題(栄光の彼方に)》(部分)

Photo by Keizo Kioku
Courtesy of TARO NASU

収集意義:
トム・クルーズが出演した映画ポスターを使った作品。ポスト・コロニアリズムやジェンダー理論という観点からも極めて高い批評性をもった秀作。2000年代以降の日本の現代美術の一側面を伝える貴重な作品で、鳥取の若いアーティストや鑑賞者にも刺激を与える。

美術作品収集の流れ

収集（購入・寄贈）候補作品（案）の検討・作成



教育委員会内協議 ← 知事部局等関係所属との調整協議



収集評価委員会



県議会（常任委員会）への報告



収 蔵